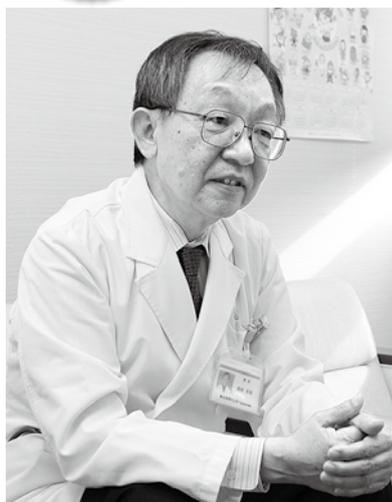


激しい揺れと長期にわたる停電、断水、燃料不足に見舞われた東日本大震災から早3年。

市民の生命や暮らしに関わりの深いみなさんは、その時どのように行動し、それを“教訓”としてきたのでしょうか。

インタビュー 東日本大震災とその後の取り組み



県北医療センター
高萩協同病院
院長 高橋 良延 さん

当院は建物の損傷がほとんどなかったことで、病院としての機能を保つことができてきました。自家発電による非常用電源は、生命に関わる電源だけで、エレベーターは使えず、暖も取れない状況でした。市内全域が停電の中、明かりがついている安心感からなのでしょうか、多くの避難者が押し寄せ、200人以上の人が病院のロビーで3月11日の夜を明かしました。そのような状況で入院患者や救急患者への対応をし、近隣の病院から入院患者の受け入れを行いました。手術中の患者さんもしましたが、担当医師の適切な判断で大事には至りませんでした。

あの震災で最も影響が大きかったのが、停電に伴う断水です。病院では飲料水だけでなく、人工透析など

県北医療センター高萩協同病院 救急医療の中核病院としての役割

でも水を大量に必要とします。震災時、1日に7回の会議を開いていましたが、毎回問題となつたのが水の確保でした。しかしながら、自衛隊や北茨城市、高萩市の協力により、給水車で浄水場から水を運んでいただくことで、最悪の事態を避けることができました。

地域の中核病院には、有事の際にも安定的な電気、水の確保が必要とされます。震災後、飲料水メーカーと水の確保に関する協定を締結したのもその対策の一つです。

震災時、患者さんにはご迷惑をおかけしましたが、皆が助け合い、お互いに感謝の気持ちをもって対応することで、震災直後の混乱を乗り越えることができました。

3月9日・11日 シェイクアウト訓練に参加しましょう！

災害が発生したときに初めにとる行動は、まず自分の身を守ることです。

いざというとき、すぐに行動できるように訓練しておきましょう。

シェイクアウト訓練とは

シェイクアウト訓練は、地震が多発する米国カリフォルニアで2008年に開始され、世界中で行われている新たな地震対応訓練です。

その場で約1分間、自分の身を守る安全行動を行う、気軽に参加できる訓練です。

詳しくは、The Great Japan ShakeOut（日本シェイクアウト提唱会議）のホームページをご覧ください。

訓練日時・場所・実施内容

- 日時 3月9日(日) 午前9時00分
3月11日(火)午後12時30分
- 場所 高萩市内全域(その場で)
※訓練の前に自分の身の周りにある「動くもの」、「倒れるもの」、「飛ぶもの」、「落ちるもの」をチェックして、安全を確かめてください。
- 実施内容
- 1 訓練開始時間までにラジオ「たかはぎFM(76.8MHz)」を選局してください。
- 2 3月9日(日)は午前9時に、3月11日(火)は午後12時30分に防災行政無線屋外スピーカーとラジオから地震速報が配信されます。
- 3 放送を確認したらすぐに机の下にかくれるなど、自分の身を守る安全行動を開始してください。
- 4 自分の身を守るための安全行動を約1分間行いましたら各自訓練を終了してください。

社会福祉法人 愛正会 入所者とその家族の安全を最優先



社会福祉法人 愛正会
特別養護老人ホーム 松籟荘
施設長 村上 和之 さん

地震の揺れが和らいだ時点で、入所者やその家族の安否確認を行いました。幸いにも人的被害はありませんでしたが、施設にとって、電気・ガス・水道などのライフラインが途絶えたことが大きな問題でした。特に停電の影響が大きかったです。水に関しては貯水槽の弁を閉じ、飲料用のみにして生活用水への供給を止めました。食糧に関しては、平常時でも1〜2週間程度の備蓄がありました。しかしながら、電気や水道の復旧の見通しの立たない中での使用にはだいぶ苦心しました。

震災前から定期的に防災訓練を行っていましたが、あのような大規模な災害を経験し、有事に対する不足部分を大いに痛感させられました。特に職員間の情報伝達の難しさを感じました。震災後、各セクションごとにアンケートを行って問題点を洗い出し、平成24年10月に災害時対応マニュアルを改訂しました。また、ポータブル発電機を配備したほか、食料品納入業者や他の施設等と協定を締結することにより、災害時に円滑な連携を図れるよう対策を講じました。

入所者の家族や近隣の農家などから食糧や水の援助がございました。当施設は老人ホームという性格上、他の事業所よりも自助できる体制を備えておりましたが、非常にありがたく感謝しております。地域社会との協力の大切さを感じました。

地震発生直後からの大規模な停電により多くのガソリンスタンドでは給油ができない状態となりました。弊社では3店舗（高萩・日立・水戸）の給油所を開設しておりますが、幸いにも給油ができないガソリンスタンドは1店舗もありませんでした。

震災後は特に、市役所、警察署、消防署などの緊急車両を最優先に供給する対応を致しました。しかし、石油元売りからの供給が一時止まり、ガソリン等が品薄の状況となりました。弊社の各店舗でも、給油待ちの長蛇の列ができ混乱の中で営業をしていく状態でした。1人でも多くの人に燃料が行き渡るようにと、車1台につき、20ℓと限定供給を致しました。

高萩商事株式会社 迅速な燃料確保 安全を第一に



高萩商事株式会社
代表取締役社長
山口 直樹 さん

また、整理券を配布し交通の妨げとなる長蛇の列を解消する方法もとりました。さらに警察署や消防署のご協力をいただき安全に供給することができました。すべてが初めてのことで「備え」の重要性を改めて痛感しました。

石油等燃料も大事なライフラインです。3・11の震災以降、国の災害対応型中核給油所等整備事業により、弊社が「中核SS（サービステーション）」の指定を受けました。国からの支援により自家発電設備、生活用水2トンの

増設、地下タンクの増設・増強をしました。備蓄機能を強化することで地域の石油製品の供給拠点としての対応ができるようになりました。また、市内の石油業組合と高萩市との間で「災害時支援協力に関する協定」を締結し、行政との連携体制が整いました。

今後も弊社は、市民生活の重要なライフラインを担っていることを自覚し、緊急時にも迅速にそして安全に対応できる体制強化に努めていきたいです。

緊急時は76.8MHz たかはぎエフエムを聞いてください

昨年4月に開局した「たかはぎエフエム」は、開局時から市と「災害時における情報発信に関する協定」を締結しています。緊急時には防災やライフラインに関連する情報を、いち早く市民の皆さんに提供する役割を担います。

私たちスタッフ一人ひとりも「自分ならどんな情報が必要か」ということを考えて常に情報収集しています。いざという時のためにも、日頃からたかはぎエフエムをぜひ聞いてください。



たかはぎエフエム
パーソナリティ
リリーさん